

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

白いヤクスギランド

神山小学校 六年 日高 駿治

「ねえまだつかないの。」

後ちから弟の声でした。家族みんなでヤクス

ギランドに遊びに行く中でした。周りの雪

景色は、いくら進んでもかわらなかつた。で

もこの景色は、いつまで見てもあきないくら

いきれいだった。十五分くらいするとなにか

見えてきた。通行止めの看板だった。

「ええ行こうよ。」

弟が残念そうに言った。上から何台か車がお

りてきたし、いのかなと思つたのが先に進ん

だ。弟がほつと息をついた。

「少し時間がかかるかもね。」

父さんが言った。ゆっくりときりのように

ねむけがぼくをおそつてきた。二十分くらい

たつただろう。弟のつめたい手におこされた

えして弟はニッコリ笑つて

「ついたよ。」

と言つた。

No.

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

ザクッザクッ雪の上を歩く。  
「春や夏とはぜんぜんちがうな。」  
思わず声を出してしまった。春や夏にはそこ  
ら中をおおった木々が青々しく光って見えたと  
しかし今は木々を雪のみこんでいた。でも、  
これはこれでもき氷いだ。他の人  
がづくった雪だるまがたくさん並べてあった。  
山のおくの方からかすかに聞こえる川の流水  
る声がここちよかった。  
「兄ちゃん雪合戦しよう。」  
弟がうれしそうに言った。  
「いいよ。」  
そう言って弟に近づこうとしたとき、  
「え。」  
力が一しゅんぬけた。ドストとしりもちをつ  
いた。足場の雪がすくなくてすべりやすくな  
っていったがうた。ケラケラ笑ってる弟に雪玉  
を投げた。弟も笑いながら投げ返してきた。  
弟の投げた雪玉はすぐにくずれて、ぼくまで  
にびかなかった。そのうちうまくなってきた。

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

ついで夢中になつて遊んでた。そしてしばらくの間目の前にひろがる雪景色にみとれていた。  
「帰るよ。」  
後から母の声があった。ヤクスギランドって緑だけじゃないんだねと話しながら車に垂った。来る時はねおつてて気づかなかったけれど、まりの中もきれいだね。  
またこの場所に来てみたい。

No.

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)

